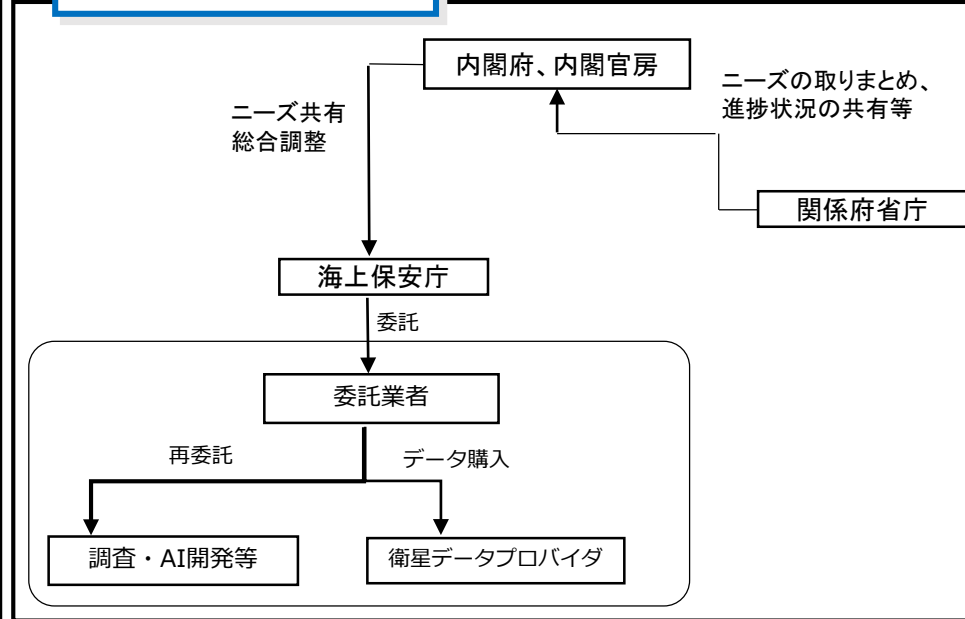


衛星データ等を活用したAI分析技術開発

事業計画

- ① 原理開発調査
 - ・利用を希望している省庁への概要説明及び要望調査
- ② プロトタイプ AI システム開発
 - ・上記調査にて把握した各省庁の業務ニーズに対応したプロトタイプを開発
 - ・開発の過程で、必要に応じ各省庁からの要望を再調査のうえプロトタイプに反映
- ③ 情報共有基盤構築
 - ・プロトタイプの試験運用を通じて、ユーザーとなる各省庁からニーズ充足度（使い勝手等）についてヒアリング実施
 - ・上記を踏まえ所要の修正
- ④ 評価・検証
 - ・試験運用を通じた所要の改修に取り組みつつ、中間評価を実施し更なる改善を継続
 - ・実用モデルの作成
- ⑤ 社会実装
 - ・令和7年度から実用モデルの展開を想定

実施体制



留意事項への対応状況

- 効率性を高めるため、関係省庁共有基盤の開発にあつては、既存システム（海しる）を用いることで検討を進めており、プロトタイプの試行も海しるを活用予定
- 関係府省庁からのニーズを効率的に取りまとめ、共有基盤を開発するため、内閣府総合海洋政策推進事務局の取りまとめのもと関係府省庁会議を開催している。

	R3	R4	R5	R6
①	原理開発調査			
②	プロトタイプ AI システム開発			
③		情報共有基盤構築		
④	評価・検証			

衛星データ等を活用したAI分析技術開発

当該年度の進捗状況

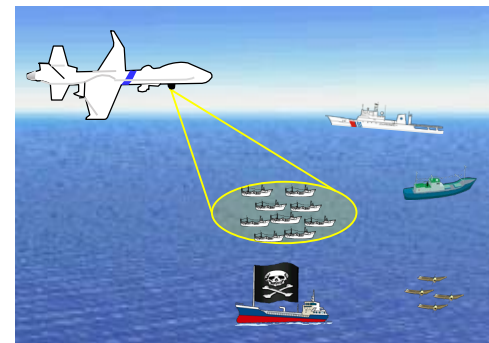
- ① 関係省庁二ーズ構築体制を構築
 - 参加府省庁による第一回会合開催
- ② 契約業者の決定
 - R3.8.24 委託事業者と契約
- ③ 関係省庁ヒアリング
 - 8.27～9.17の間、参加府省庁からヒアリングを実施
- ④ プロトタイプの試運用
 - 参加省庁による試用開始
- ⑤ R3の活動・R4の予定報告
 - 参加府省庁による第二回会合開催予定

次年度の事業計画（案）

- ① 参加府省庁からの意見聴取（第1四半期）
 - 初年度に試運用に参加した府省庁にヒアリングを実施
- ② 問題点の抽出（第2四半期）
 - ヒアリング結果及び技術調査の結果を踏まえ、問題点の抽出を実施
- ③ AIの再学習・ソリューションの改修（第3四半期）
 - 抽出された問題点解決のためのAIの再学習・ソリューションの改修を実施
- ④ 再試運用（第4四半期）
 - 再度の試運用を関係省庁に依頼

飛行実証結果（令和2年10月15日～11月10日）

- ➔ 事故を発生させることなく、全13回・合計約147時間の飛行実証を実施。
- ➔ 24時間以上の長時間の飛行ができ、昼夜を問わず海上保安業務に対応可能。
- ➔ 有人機と同等またはそれ以上の監視能力を有する。
- ➔ 衛星を通じ、地上から繊細な機体のコントロールが可能。
- ➔ 遠隔操縦システムは、嚴重な妨害対策が施され、安定した運用が可能。
- ➔ 自動衝突防止装置により、他の航空機との衝突を回避できる。



『無操縦者航空機の安全性を確認することができ、
より効果的・効率的に海上保安業務を遂行できるとの結論に至った。』

↓ 導入を見据え、具体的な運用について検討

運用概要

- 【時期】令和4年10月～（予定）
- 【拠点】海上自衛隊 八戸航空基地（調整中）
- 【機体】市場調査中（全長10m・全幅25m 程度の中型機を想定）
- 【内容】我が国周辺海域の監視警戒業務・事案対応（海難・災害対応）等
- 【その他】➔ 安全対策・騒音対策を徹底。
 - ➔ 機体や設備はリースとし、常に最新技術の導入を図る。
 - ➔ 操縦・整備要員はアウトソーシングとし省人化を図る（管理監督は海上保安官）。
 - ➔ 令和4年度は1機体制での運用を積み重ね、令和5年度以降は複数機で運用予定。



イメージ